

**令和7年度
第1回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和7年8月7日(木)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

第1回藤島地域振興懇談会(会議概要)

- 日 時 令和7年8月7日(木) 18:00~20:10
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員 11名:成澤 剛、佐藤 浩幸、井上 夏、上野 拓史、高山 千代子
齋藤 昭彦、大沼 富美雄、金内 未由枝、須貝 高貴
- 欠席委員 4名: 太田 幸治、佐藤 智信、上田 智哉、星川 洋平
- 市側出席職員
- 〈企画部〉 地域振興課長 鈴木 泰行、地域振興課地域振興主査 渡部 久美子
地域振興課専門員 北山 幸平
- 〈藤島庁舎〉 支所長 白井 覚、総務企画課長 齋藤 優、市民福祉課長 工藤 礼子、
産業建設課長兼エコタウン室長 上林 喜博
農業委員会事務局長 黒井 布美
総務企画課課長補佐 佐藤 千冬、総務企画課副主幹 成田 譲
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 村田 喜栄

○次 第

1. 開 会 齋藤 優 総務企画課長
2. あいさつ 白井 覚 藤島庁舎支所長
3. 自己紹介
4. 会長、副会長の選出
5. 報 告

(1) 令和6年度第2回藤島地域振興懇談会での質問事項について 報告資料1

6. 説 明・協 議

(1) 令和7年度藤島地域主要事業について

・令和7年度藤島地域まちづくり未来事業

資料 1-1

・藤島地域主要事業及びまちづくり未来事業について

資料 1-2

(2) 藤島文厚エリア等検討事業について

資料 4

(3) 第2次過疎計画の策定について

資料 2

(4) その他

7. その他

次期鶴岡市地域公共交通計画策定について

資料 3

5. 報告

- (1) 令和6年度第2回藤島地域振興懇談会での質問事項について 報告資料1
(市民福祉課長、総務企画課長説明)

————— 委員より意見・質問なし —————

6. 説明協議

- (1) 令和7年度藤島地域主要事業について
- ・令和7年度藤島地域主要事業 資料 1-1
 - ・藤島地域まちづくり未来事業 資料 1-2
- (総務企画課地域まちづくり企画調整主査、総務企画課長・市民福祉課長・産業建設課長・農業委員会事務局長説明)

————— 委員より意見・質問 —————

【委員】

スマート農業の導入について、市としての支援や研修の取組状況はどうなっているか。特に、高齢農業者には ICT 導入が難しいため、高校生など若い世代と連携し、ロールモデルとなる農地を整備すれば、導入のハードルが下がるのではないかと。

【産業建設課長】

スマート農業は総合計画にも位置づけられているテーマで、国の補助金を活用しながら推進している。藤島地域では「藤島農産物元気事業」の中で、会員による実証実験(有機栽培のアイガモロボなど)を行い、導入効果を検証している。機械は高額であり、各経営体の実績を踏まえて判断していくことが重要。

【委員】

子育て支援事業費が3億円と突出している点について、内容がハード整備中心なのか、選択と集中の結果なのか

【市民福祉課長】

子育て支援事業費の大部分は、公立保育園・児童館の指定管理料および工事費である。総額で約3億円となるが、内訳資料は本日手元になく、次回詳しく説明する。

【委員】

藤島の将来像として「農業」と「子育て」を大切にすべき。その基盤が明確になれば、そこにしっかり予算を投入できる。農業高校で最新のドローンなどを学べるようにすれば、全国から農業を学びたい生徒が集まり、藤島の魅力発信にもつながる。

【委員】

農業教育の充実には、寮を含む受け入れ体制の整備も必要。空き家を活用して少人数でもよいので全国から学びに来られる環境を整えることは有効。

【委員】

藤島体育館の修繕の扱いはどうなっているのか。

【総務企画課長】

教育委員会スポーツ課が所管だが、藤棚の修繕については藤島のまちづくり未来事業予算を使っている。

【委員】

夏祭りが活動センターに移ったが、体育館での開催はできないのか。活動センターは狭く、規模も縮小していると感じる

【産業建設課長】

移転の理由は主に熱中症対策。体育館は空調設備が不十分で、来場者の安全を考慮し活動センターで実施している。

【委員】

活動センターは駐車場不足など不便が多い。余目では屋外開催しているのに藤島だけ空調に固執するのは疑問。夏祭りは地域文化の継承でもあり、規模を縮小し過ぎないように拡大方向で検討すべき。

【産業建設課長】

相撲大会や魚のつかみ取りなど従来の催しがなくなり、新たな企画が不足していた。今後は住民からの意見も参考にし、改善に努めたい。

【委員】

婦人会は夏まつりにずっと協力してきた。昨年からは盆踊りが無くなってしまった。今年も実行委員会に呼ばれず盆踊りがなくなったことも伝え知った感じ。とても寂しい思いをしている。拡大の方向になってほしいと思う。

【産業建設課長】

次回の実行委員会で本会からの意見を報告し、検討材料とする。

【委員】

道路に関して、県道も含めて状態が良くない。谷地興屋と大川渡の間も何十年前に進まな

い状況が続いている。道路について積極的に働きかけてほしい。

【産業建設課長】

谷地興屋・大川渡間の道路は期成同盟会の優先事項として要望している。これからも粘り強く要望していきたい。

【委員】

畑の耕作放棄地が増えている。地域の高齢化でそのような状態になっている。市で積極的に関わってほしい。

【産業建設課長】

耕作放棄地については地域計画の策定の目的の一つである。地域の方々に相談いただいて計画をブラッシュアップしている所なので地域の中に市も入ってほしい。

【委員】

藤島は、東田川文化記念館、農業試験場、庄内農業高校がそろっている。その活用方法を考えてもらいたい。特に慶應先端研への参加なども促しながら藤島の農業を土台とした特化した研究をやるようにバックアップしてもらいたい。

【産業建設課長】

庄内農業高等学校地域連携事業は現在は庄農うどん大作戦がメインとなっているが、有効な活性化策があればこの事業で取り組んで頂けると思う。新たな事業に取り組めないか検討する。

(2)文厚エリア等検討事業について 資料 4

(総務企画課副主幹説明)

_____ 委員より意見・質問 _____

【委員】

文厚エリアは藤島の将来にとって中心拠点となるべき。小中学校に加え、図書館や児童館などの施設を早めに位置付け、住民意見を反映すべき。

【支所長】

文厚エリア構想は策定作業中であり、この地域の中核的な位置付けとなる場所でもあるので将来にこうしていきたいという考え方を整理したうえで事業にとりかかっていきたい。ワークショップや地域振興懇談会などの機会を捉えて意見を頂戴していきたい。まずはその土台となる考え方を整理している段階なのでお示しする段階になったらご意見を頂戴したい。

【委員】

藤島が農業の町でいきたいという柱がちゃんとあれば、子供のころから農業に関わる勉強ができる環境をつくっていくという方向で考えられる。

【委員】

ただ小学校と中学校が一緒になることしか知らなかったので、図書館と一緒にいいなと思う。藤島の図書館は古い。酒田の図書館にも行くが、見習う所がいっぱいあると思った。

【委員】

庄農も含めた教育体制を考える場所をつくってもらいたい。庄農に入って地元に残ってもらう人を育てたいわけで、そういう環境づくりが土台として残れば義務教育学校というのは非常にメリットがあるのではないか。

(3)第2次過疎計画の策定について 資料 2

(地域振興課北山専門員説明)

————— 委員より意見・質問 —————

【委員】

過疎は全国的な問題。農業の大規模化と担い手不足、あまりにも恵まれた稲作の農業がアンバランスの所に来ている。私は上中野目出身だが、農業をやっているのは2軒しかなく、他の地域の方が作っている。これは組織立てて意見交換をして、農業をやめる方々の安心と安全、将来の礎がどこに伸びていくのかをきちんと提言することが必要。藤島から農業の全国の基本となるような活動を期待している。

【委員】

農協で組合員にアンケートを実施した。農業従事者の高齢化が進んでいる。今後どんどん離農していく受け皿を何とかできないか農協では協議中である。私自身は大きな法人と手を取り合ってやっていくのが理想かと思っている。行政とともにこういう諸問題を解決しながら藤島は農業で行くことで今後取り組んでいきたい。

【委員】

先日テレビで集団就職についての番組をやっていた。当時は青年団が交流の場となっていた。そこが婚活の場にもなっていた。子供たちに藤島が良いところだと思わせるためにはどういうふうな地域活動に取り組んでいくかというのが大事。こどもたちにただ取り組みなさいと言うのではなく、大人が共に取り組むことが大事になる。若い人には交流の場が必要。藤島を代表するような方もこのメンバーにもいるのでこうした取り組みを掘り下げてしていかなければならないのではないか。

【委員】

鶴岡市は今、工業出荷額が山形県で一番多いということもあって、産業団地を作ろうとしている。そこに道路ができれば、住宅団地ができて人がやってくる。

藤島が農業の町としてやっていくのであれば、東田川文化記念館や普及センターに、昔～今までの農業展示を行い、小学生低・高学年バージョン、中学生バージョンなどで刺激を与えて庄農に入ってもらえるような繋がりができないか。また場合によっては、農協や県職から説明する人を集め、その際に夏祭りや獅子、食べ物に関する事など農業・農家に絡んでいる話題を提供し、地域の魅力を発信し盛り上げる工夫ができればいいと思う。

【委員】

情報伝達を広げることがかなり不足しているのでは。いいものがたくさんある、面白いものもあるんだから伝えていくことが大事。

【委員】

質問だがデジタル導入する場合の指標はどのように考えているのか。

【北山地域振興課専門員】

どういった政策をたてるかでKPIは変わっていくので、それを加味して次回の懇談会でご提示できればと考えている。

【委員】

畑の耕作放棄地について、土地が分割されていると有効活用が難しい。公社的なところで支援をしながら金を生みながら地域できちんと再生エネルギーが作れるように転用を進められないか、農業委員会で議論していただきたい。

【農業委員会事務局長】

確かに畑の借り手が見つからない状況はある。荒れている畑が点在している場合だと非農地判断ができない。耕作放棄地対策はきちんと検討していきたい。所有者不明農地の対策もしっかりやっていきたい。

【委員】

地主がわからない土地をきちんと行政に引き継げるように整備していかないといけない。農業委員会には頑張ってほしい。将来に負を残さない意味で。

【委員】

子供たちが農業に興味を持つようになったら何か面白いことが出来そうだと思う。

【委員】

整備をしっかりして農地を貸せる状態にする。そういうことが大事と思う。

7.その他

次期鶴岡市地域公共交通計画策定について **資料3**
(地域振興課渡部主査説明)

————— 委員より意見・質問 —————

【委員】

持続可能な交通ネットワークとしてAIオンデマンドのようなものをゴールとしてイメージしていると思ったが、実際のニーズになる高齢者や困難者がICTに不慣れだということでゴール像をどのように考えているのか。

【地域振興課渡部主査】

現在は整理段階でAIオンデマンドをめざしてという所に設定はしていない状況。これからアンケートや調査で将来の5年後の姿を検討したい。